

大地協ニュース

大地協ニュース復刊 第13号

発行元：NPO 法人 大阪市地域福祉施設協議会

企画委員会 《広報宣伝部》

発行日：2021年12月 第13号

担当窓口：望之門保育園 佐伯 剛

TEL 6651-7741

Fax 6652-8841

大地協の最新☆情報は右記→

QRコードをご覧ください。

大地協ニュースへのご感想・記事へのリクエストなど
ございましたら上記担当者までぜひご連絡ください。



新年の

お慶びを

申しあげます



今年こそ、みんなが活躍できる より良い年になりますように!!

昨年はコロナ禍に翻弄され、大人も子どもも、想像以上に厳しい状況下で過ごされたことと思います。この大地協ニュース 13号が、皆さんのお手元に届くころ、オミクロン変異株がどのようなになっているか予断を許しません、対応するしかありません。

一方で近年急速に、児童の虐待や不登校児・行きしぶり児童の増加、こども食堂の多様化、ヤングケアラー問題・8050問題、ひきこもりや老々介護の対策など福祉を取り巻く課題が浮き彫りとなってきています。心が弾むような嬉しい話題が本当に少なくなって、何でこんな世の中になったんやろと何度も首をかしげてしまいます。

先日、研修会で一人の女性活動家の実践を伺いました。本来の給与対価職務をこなし、2児の母親として家事を全うし、その合間にボランティアで、子どもの貧困対策に奔走されている演者は「好きだからできる」「ボラだから続けられる」「様々なケースに出会い、挫折と喜びの両面を体験できて、大きなやりがいを体感できる」。このように話され、静かな口調の中に、とてつもないパワーを感じとることができました。

私たち施設では、どこまで実践できるのだろう。なんで一歩が踏み出せないのだろう。ボランティアなら活動できて、本来業務では、なぜできないのだろう。そのことは、ずっと以前からの課題であり、いまだに解決できていません。いつも実践者の話を伺うたびに刺激を受け、その度に新たな取り組みの絵は描けるのに行動に移せない。そんな葛藤が続き月日だけが経過してしまいます。

今、社会はコロナ禍に翻弄され、新たなコミュニティ形成が築かれようとしています。言葉は良くないですが、この機会をとらえて施設がアクションを起こすチャンスの時でもあると思います。このアクションこそが、社会福祉法人に求められる社会貢献活動ではないでしょうか。

大地協の仲間たちは、結束力と平等性に長けています。地域福祉施設が持つ底力と大地協が持つ団結力を結集して、今こそ新たなソーシャルアクションを起こそうではありませんか。

2022年寅年に、大地協は新たな第一歩を踏み出します。

久しぶりのお出かけ! 初めての交流!を楽しんだ1日

「ザリガニ元気なかったから釣れなかった…。」「バスボムおっきいの作れた!」「リレーで靴脱げて本気だせなかった」「ドッジボールで当てた!」そんな声が聞こえてきたのは、11月14日(日)に行われた、ともだちフェスティバル&ともだちドッジボールに行った次の日の事でした。

新型コロナウイルス感染症が流行し、子どもの家の行事は制限されなかなか思うように外に出ていけない日が続いてきた中で、ようやく公共交通機関を使用してのお出かけができるようになり、今回の大阪市地域福祉施設協議会主催のともだちフェスティバル&ともだちドッジボールに参加してきました。

午前中は「ともだちフェスティバル」として、大縄跳び・手押し相撲大会・ザリガニ釣り・リレー大会・クリスマス工作、他にもたくさんの魅力的なコーナーがあり、自由に遊びに行けるようになっていました。みんなどこに行こうか目を輝かせて今か今かと開始を待っていました。広い会場で初めて関わる子どもたちだけの場所に戸惑いなかなかスタートが切れずにいましたが、だんだんと空気になれると、動くのが好きな子どもたちはリレーや手押し相撲大会へ、ゆっくり過ごしたい子は工作コーナーへ、と自分の行きたい場所を選び分かれていきました。会場内では、場にすっかりなじみたくさんの子どもたちに溶け込み楽しんでいる姿を見ることができました。

午後は「ともだちドッジボール大会」が行われました。本気コートと遊びコートに分かれ、強者たちに交じて優勝を狙うもよし、ワイワイ楽しむもよしでドッジボールを満喫しました。果敢に本気ドッジに挑戦しに行く1年生たちもいれば、遊びドッジに居座り主と化した上級生たちもおり、それぞれが遊びたい方を選びながら楽しんで過ごしてくれました。

一日思いっきり遊んだ子どもたちの、悔しかったり嬉しかったりの感想を教えてくれるながらの満足げな顔がとても印象的でした。他施設のたくさんの子どもたちに交じて他施設の先生たちがスタッフとして運営する行事で遊ぶことで、普段の生活の中では関わることのない人たちとの交流ができ良い経験になったのではないのでしょうか。そしてみんなで出かける楽しさも再確認できました。今後も子どもたちの経験を広げるためにも参加を続けていきたいと思えます。

四貫島友隣館子どもの家 荻野 遙馬

手作りカードゲームで笑顔の連鎖

「ただいま!」とマスク姿で登所し、消毒、検温をしている子ども達。いつの間にかそれが当たり前前の光景になっています。コロナ禍で相次いで小学校が休校になったり、行動が制限されたりと生活様式がガラリと変わり、子ども達にとってどれほど大変な思いをしてきたか計り知れません。

そんな中でも、子ども達が楽しく過ごせるにはどうすればいいのかと考えていると、「友達と遊んだ料理の具材を集めるゲームが楽しかったから作ってほしい!」の子どもの一言からカードゲーム制作が始まりました。どの料理、どの具材にするか子ども達と考え、パソコンのエクセルを使ってデザインし、オリジナルのカードゲームを印刷、ラミネートをして完成。

子ども達に披露すると大喜び。新1年生にルールを教えてあげたり、学年や小学校関係なく夢中になって何度も遊んでいます。「早く遊びたい!」と帰って来るなりすぐ集中して宿題に取り組み、終われば子ども達同士の輪になって楽しんでいることもあります。「先生も遊ぼう!」との声もたくさんあり支援員も一緒になって遊び、「料理が完成した!」とマスク姿からでもわかる満面の笑顔を見せてくれて、良いコミュニケーションツールになり、現在はデザート版のカードゲームを子ども達と制作中で完成が待ち遠しい今日この頃です。まだまだコロナ禍で不安な毎日が続く中、いつかマスクをしないで大声で笑いながら遊べる日を心から願います。

社会福祉法人 淳風会

アフタースクールKIDSかわぐち 支援員 長岡 直哉



変わりゆく西成区 あいりん地域西成区特区

大阪市西成区の北東部のあいりん地域は全国有数の日雇労働力の地域として知られる。この地域は日本経済にとって欠かせない日雇労働力の供給拠点だった。しかし、現在は高齢化が進み、失業や無年金・低年金などの理由から生活保護を利用する人々の割合も高くなっている。こうした町の状況から西成が変われば大阪が変わるをスローガンとして「西成特区構想」が発動し、行政職員、地域の関係者他で構成されたメンバーが集まる会議体により56項目の問題点がまとめられ2013年から本格実施された。2019年の労働センターの一時移転、2021年には社会医療センターの完成により町の様子が急変してきた。あいりん地域一帯の望ましい将来像が提案され、地域住民から広く意見を聴取しその結果、「地域の活性化に向けた取り組みを積極的に進めながら、様々な従来の対策を基本に方向性が定められ、西成特区構想の本格的な始動に伴い、あいりん地域内の不法投棄や放置自転車が減少し、反社会的組織による違法活動の取り締まりも強まった。2022年4月にオープンする星野リゾート、新今宮ワンダーラント構想による地域一帯の文化商業施設の整備、新型コロナウイルスの感染拡大により停滞していた、旅行者・ビジネス客を見込んだホテルの建設が急ピッチで進んでいる。今までの「不衛生」「治安が悪い」といった従来のイメージは、この5年間で大きく変わってきたが、いまだ野宿生活者がこの地域での暮らしを余儀なくされていることや野宿生活から脱却して安定した居所を得たとしても慣れ親しんだ地域で暮していくには課題が多い。2025年大阪万博に歩調を合わせ、変わりゆく、あいりん地域の期待は大きい。

社会福祉法人 石井記念愛染園
大阪市立 西成市民館 徳山 基治

福祉系書籍紹介 ブヒリオバトル

北海道と沖縄を巡る物語

ある大晦日を迎えた夜、テレビで精神障害をかかえる人たちのグループが紹介されていました。とてもなごやか空気が流れ、ひとり一人が安心してそこに居り、また話が苦手そうな人もみんな楽しそうなのです。わーこんなグループがあるんだとびっくり、温かい気持ちにさせられました。この舞台が、北海道の襟裳岬に近い過疎化のすすむ、浦河にある「ベテルの家」です。と言っても日々生きるには様々な問題が起こります。しかし「べてる」では、統合失調症をかかえ生きづらさのメカニズムや意味を、当事者自らが仲間とともに解明し、ありのままに情報を出し合い、生活に役立てようと、「当事者研究」が始められます。「幻聴さん」もその成果のひとつ。幻聴は多くの人を悩まし、その人を操ってしまいます。反撃するのではなく、心配ありがとうございます。無理しないようにしますから、もう少し散歩をさせてくださいと幻聴さんにやさしく丁寧に粘り強くお願いすると、さすがの幻聴さんも根負けしてお家に帰ることもある、といった事例が報告され、他のメンバーが勇気づけられます。居場所を求めて続けて、やっと浦河にたどりついた。ここには自分の気持ちをあたりまえに公開でき、自分の気持ちを語れる場がある。それを聞いてくれる仲間がいる。そんな世界を垣間見せてくれました。

もう一冊は沖縄の精神科デイケア施設に大学院を終えたハカセが職を得、「とりあえず座っといてくれ」と言われるところから物語が始まります。共に過ごす楽しさがあり、また同僚が去る悲しさがあり、ケアとセラピーが織りなされます。日本社会が抱えるケアシステムの問題をも浮き彫りにしてくれています。

▲ おすすめ書籍 ▲ 『べてるの家から吹く風』 向谷 地生良・著

▼ おすすめ書籍 ▼ 『居るのはつらいよ - ケアとセラピーについての覚え書き -』 東畑 開人・著

社会福祉法人阿望仔 望之門学童クラブ施設長 藤井 道雄



『 今、自分たちにできることをあらためて考える 』

今回の研修では、「子ども食堂の実践から学ぶ」ということで、実際に地域での実践を聞かなかで多くのキーワードをいただいたと思っています。あらためて自分たちに何ができるのかということを考えるきっかけになりました。

・ ひとり親世帯への支援

自分の学童でもひとり親の世帯が増加しています。経済的にも生活も余裕のない家庭もあります。表面的には見えないしんどさを抱えている保護者や子どもの実態をもっと知る必要があると感じました。もしかしたら子ども食堂や食料配布など必要としている家庭があるかもしれないと思います。まずは地域の資源を知ることや支援の必要な人がつながれるような連携をつくりたいです。

・ 不登校児の居場所

学童を卒業した中学生のOBが不登校になっているという情報はつかんでいるものの、なかなか支援できずにいます。何か学童で力になれることはないか、その子の居場所になれるようなことはないか。と考えています。まずは、保護者や学校などと連携し、今の実態を知ることが必要で、学童としてできることを考えていこうと思いました。

・ お出かけやとりくみなどの豊かな経験が自信につながり、今と未来を拓く力になる

コロナの影響で今までやっていた行事やとりくみができなくなっている現状があります。子どもたちは「コロナだからしょうがない」と自分に言い聞かせあきらめているようです。しかし、キャンプなどの普段の生活では経験できないことや仲間と一緒にできない行事などは、子どもたちの成長には欠かせない経験だとあらためて感じました。できなくなったものもできなくなったままにしないで、「できることをしよう」と子どもたちと一緒に考えていくことを今後の課題にしたいです。

・ 子どもに必要なのは安心感と近い未来への希望

その通りだと思います。日々の生活を安心してすごすことができないと心も体も健康ではいられません。そういう意味で家庭や学校、学童での生活が安心感のあるものか、ということをはっきり見ていくことが必要です。特に家族や友達との関係性がうまくいっているかということは大事だと思います。また、学童では、子どもたちが「楽しみ」と思えるあそびや生活があるかということや、子どもが「こんなことしたい」と言える雰囲気や「こんな楽しいことしよう」とみんなで考えていける場があるかということをおあらためて考えていきたいです。

・ ひとりひとりにあわせて枠からはみ出す柔軟性

どうしても施設の中の子どものや施設運営の範囲内での仕事の仕方や考え方になってしまうことが多いことに気づかされた言葉でした。支援を必要としている子がいたり、これは大事だ、と思ったりすることは、今までやっていたとかやっていないということにとらわれないで、創り出していくことが地域福祉だと思います。目の前の子どもや保護者から出発した支援が基本ですが、それが施設の中だけで終わるのではなく、幅広く視野を広げて地域とのつながりをつくっていくことを課題にしたいです。そのために今、自分たちにできることからひとつひとつやっていきたいです。

『 今回が第20回の児童部会ということで、今年も開催できてよかったと思っています 』

自分は第3回目のセツルの家での開催から参加させていただき、ほぼ毎年参加してきました。(今回が17回目の参加だと思います)ここ最近では、日程のことやコロナの影響もあり対面でできないことや、1日だけの研修となっていることは残念ですが、こうやって続いていることがすごく大事なことだと思います。児童部会の良さは、自分の日々の子どもへの関わりや仕事の仕方を振り返ることができることです。特に大地協のメンバーからは大きな刺激をもらい「もっとやれる」と思わせてくれています。今回も多くのことを学び今後の仕事への力をもらった気がします。ありがとうございました。

個人的には、またキャンプ場で自然を感じながら児童部会の研修がしたいです。まじめな話はもちろんですが、野外活動をしながら何気ない話題で語り合い中を深めていけるのが児童部会の良さです。ぜひコロナが落ち着いたらまたそういった研修をつくっていきましょう!